

## 継続教育の目標およびプログラム

継続教育の目標およびプログラム		レベル別研修
レベルIV	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創造的な看護実践を展開できる</li> <li>2. 単位における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる</li> <li>3. 単位における教育的役割がとれる</li> <li>4. 管理および専門看護分野における研究開発を行い、変革の推進者となる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践的側面</li> <li>2. 管理的側面</li> <li>3. 教育的側面</li> <li>4. 研究的側面</li> </ol> <p>・院外研修、学会など発表</p>
レベルIII	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門領域における看護実践の役割モデルとなる(プライマリナース、担当看護師として役割モデルとなる)</li> <li>2. 医療チーム内でのリーダーシップを発揮できる</li> <li>3. 後輩に対して指導的に関わる事が出来る</li> <li>4. 看護研究・研修を通して看護実践を深めることができる</li> </ol>	<p>「リーダーシップ研修」 「リーダーシップ・フォローアップ研修」</p> <p>・院外研修、学会など発表</p>
レベルII	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を踏まえた個別的ケアが実践できる</li> <li>2. 看護師(チームリーダー、担当看護師)の役割と責任を果たす事ができる</li> <li>3. 院内研修の学びを看護実践の場に生かす事ができる</li> <li>4. 課題に研究的に取り組み、看護実践を振り返る事ができる</li> </ol>	<p>「メンバーシップ研修」 「メンバーシップ・フォローアップ研修」</p> <p>・院内研修、学会など発表</p>
レベルI	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活援助のための基本的知識、技術態度を身につけベッドサイドケアが、安全確実に実践できる</li> <li>2. 看護師(チームメンバー)の役割と責任を果たす事ができる</li> <li>3. 院内研修、看護実践を通して、看護の知識を深められる</li> <li>4. 研究活動に参加する</li> </ol>	<p>「新人フォローアップ研修」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的看護技術</li> <li>・ME機器など</li> </ul> <p>「採用時研修」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院理念と看護部方針</li> <li>・職業人としての基本姿勢</li> </ul>

レベルI～IVは、臨床看護実践能力の習得段階を示し、専門看護領域と看護管理領域へと進める。臨床実践能力の育成を土台に、個々の看護師が将来目標の設定ができる教育計画を考えている。レベルの設定は、パトリシア・ベナーの理論を基本としている。

